

第6回宝塚市議会意見交換会記録 第1部

※ この記録は、市民発言者と議員の意見交換の様子について、書記として参加した議員が記録したものを元に作成しています。

「ありのままに自分らしく生きられるまち宝塚、LGBT支援を」 「性的マイノリティの人権、教育について」

市民 地元宝塚がLGBT支援地であるので里帰りをした。

自分は、トランスジェンダーである。地元宝塚が、パートナーシップを推進していることが嬉しい。

市は、理解を深めるために、職員研修は実施しているのか。

知人が、パートナーシップ宣言を希望し市へ申し出たが、職員の電話対応に問題があり、宣言を断念した。

市にとって、その知人が第1号だったらしく、申し出を受けて嬉しかったためか、取材への協力を全面的に押ししまい、結果として宣言をやめることになった。

また、教育現場にもっとLGBTの研修会を取り入れてほしい。

幼い時は、大きくなれば男の子になれると思っていた。ボーイッシュなだけで、「女らしくない」とか、「おかまだ」とかいう、言葉のいじめにあった。女の子は、スカートをはかないといけないのが辛かった。

自分は何者なのか、うその積み重ねが辛く、自分の心を閉ざしていた。

不登校になり、学校は恐怖の場だった。

LGBTの性的少数者は13人に1人いると言われている。クラスなら1人か2人はいることになる。授業で少しでも、性的マイノリティの多様性を教えてほしい。教育現場での教育が大切。小中学校の職員研修の充実や、社会教育の充実も必要である。

当事者として、ボランティア団体を立ち上げ活動している。「ありのままの自然な心で」という思いから、月に1回、第1日曜日に当事者同士の講演会を行っている。学校にも講演に行っている。今度、末成小学校に行く。学校長、教員、行政職員にも、参加してほしい。偏見や差別の解消を目指したい。

「命の生徒手帳プロジェクト」を導入してほしい。いじめられていることは、自分が悪いことでいじめが起きていると考える。いじめが無くならないと、差別はなくなる。希望を持ち続けられるように検討してほしい。

市民 人権教育で当事者を特別扱いしてほしいわけではない。同じ「人」なのだと思

張したい。私はXジェンダー（男でも女でもない）としてではなく、一人の「人」として発言をしている。

教職員への研修を充実させてほしい。

人権特別授業を実施してほしい。

議員 教職員への研修を実施している。市立学校ごとに研修会を開いたり、新規採用時の教職員プログラムに入れている。

小中学校へは、人権特別授業を実施している。生徒手帳に相談先を掲載していると思う。

議員 生の声を聴くことができ、重く受け止めている。たくさん聴かせていただくと、皆で答えていく。当事者の生の声を聴けて意義がある。

議員 2年前に文科省からも通達が出ている。学校現場ではどのように対処していくべきかをまとめたパンフレットを作成し全教職員に配付している。悩んでいる子どもがいるかどうかわからないというのではなく、「いるであろう」「配慮しないといけない」という観点から研修会を開催している。

新任教員研修会も行っている。宝塚大学の先生にも来ていただいている。虹色ダイバーシティの研修会もしている。シンガーソングライターの悠以さんに来ていただいたら、200人が来場した。2か月おきに多くの学校で実施している。

先生が正しい知識を持つことが大切。まずは先生にと研修を行っている。

人権講座も2年前から行っている。

議員 平成16年度から市では unnecessaryな性別表記をやめるよう取り組んでいる。学会にも行ってきた。LGBTの問題が社会問題としてメディアに取り上げられるようになり、リアリティをもって取り組むようになった。

議員 小中学校生を持つ父親である。子どもと親と一緒に教育を受けるなど、PTAとしても関心を持って共にやっていきたい。生徒手帳には載っていないが、今はカードが配られている。一定の説明は子どもたちにされている。

生徒手帳への標記もよい意見であると思う。

議員 さきほどのお話のパートナースHIP宣言希望者への市職員の対応は反省するべき。職員の認識を深める必要がある。

議員 その対応の事実が部長まで届いているか、確認したい。人権問題についても、

職員研修をしてきたはずだが。担当課にしっかり対応できるよう伝えたい。

議員 教育研修集会に出てきた。小学校の低学年から、自分の性別に違和感を持った子がいる。赤いランドセルを嫌だと思いう子がいる。長尾小学校では、カリキュラムを組んで進めようとしている。市教育委員会にもモデルケースや絵本の紹介をするなどの動きがある。

ただ、まだ動き始めたところ。当事者の話を聞くようなことも必要。人権特別教育を小学1年生から取り入れているが、小学校1年生に解る教材の検討も必要。

中学校の保健の教科書に「異性を好きになる」と書かれているが、そうとは限らないはず。「金八先生」のようなドラマで放送されたことで、多くの人を知ったこともある。ドラマで、心の内を書きながら、当たり前に取り上げていた。これを見ると、新鮮な感動もあった。

市民 日本は、同調圧が強い。学校の習慣で「くん」や「さん」呼びがあるが、既成概念に問題があると思う。ようやく、皆が「さん」づけで呼ぶようになった。

議員 自分は逆に考える。生きやすくなる社会にするために、マイノリティ側の立場を考えすぎて、マイノリティの人たちを特別と考えるのは、よくないと思う。

マイノリティの人たちのことを理屈でいうと、「遠い人」になってしまう。そうではなくて、「人」として近くなれば、理解は深まる。LGBTだけを取り上げて教育するのではなく、(1年生ではまだわからないと思う。)全体的な教育の中で理解を深めることが、よい教育だと思う。

できることから実行していけばよい。

議員 非常に大事なこと。様々な意見がある。社会問題として示されたことを知り、施策として取り組まないといけない。誰もが対等に自尊感情をもって学んでいけるのか、生活できるのか、提案していきたい。

市民 5月にレインボーフェスティバル(LGBTのイベント)に行った。宝塚でも、施設をレインボーに照らすイベントをしてほしい。

市民 特別扱いしてもらおうとしているのではない。全ての差別をなくす教育をしていただきたい。

議員 親戚に当事者がいる。会って話をすると、応援しようと思うようになるし、身近になる。議会も皆で応援していく。

.....

「宝塚ガーデンフィールズ跡地利活用方針、文化芸術施設・庭園整備事業計画について」

「老朽化が進む公共施設の最適化で次世代に向けた健全なまちづくり」

市民 ガーデンフィールズ跡地の利活用について、6月頃に市役所からアンケートを受け取った。ガーデンフィールズ跡地に関する資料を抜き出し、読んだり、担当の産業文化部にも話を伺った。議会ではどう扱っているのか議事録を去年あたりから検索したり、議会での質疑なども傍聴した結果、「もう一度順番を見直し、具体化させるべきだ」と思った。来年3月までに実施設計を終え、施工業者を決めて工事着工すると聞いている。また、私も参加しているが市民サポーターを募って育てようとしている。この一年やることがたくさんあると思うが、大事な項目が表面に出てきていないので、次の6項目について提案する。

- 1 実際の運営・経営を行う事業者・団体の交渉・決定が遅れている。
- 2 施設の核をなす有料利用の2F美術品メインギャラリー他の体制についてのコンセプト（覚悟）が確立できていない。必要な国内団体への加盟、法規の整備等の条件も備えたい。各市の美術館を見てきたが、市が条例を作っているし、国際美術館会議にも参加している。宝塚市は参加していない。
- 3 当施設の最大の特色となる庭園について、“施設と庭園”の新しい分野を切り開くため、外の同様の例（大山美術館、金沢21世紀美術館、大谷記念美術館など国内外の施設）を参考に、さらにリサーチを深める必要がある。

4 施設運営費の収支について

光熱費等維持費 — 使用料収入 △93,000,000円/年

(起債)投資の返済 100,000,000円/年

計 約200,000,000円/年 規模

- の市民・税負担があることを市民やサポーター候補にも開示し、責任ある討議をしていく必要がある。このような大きな文化施設を運営していくための市からの費用出費の額や、市が今まで経験してきた直営・公益財団法人・NPO等の方式を総括し、運営主体の組織の検証を行いたい。
- 5 収入を増やすため、収支及び返済をカバーする賛助（維持）会員制度を早急にまとめ、市内外の企業・団体・個人に打ち出して行く必要がある。
 - 6 計画の具体的な期限が見えない。スケジュール化して時期が分かるようにしてほしい。市役所の担当が次長と係長だけで、それも兼務であり、体制が不十分である。オープンまでに体制強化が必要だと思う。専任化、プロジェクト的な支援体制に。

上記の各項目について、2017年12月末、2018年3月という具体的な各期限を設定しての進捗を図りたい。

以上のことを市行政に要望したいと思い、調べていると市政への意見・要望を届けるには、議会への陳情・請願という方法があるということなので考えていきたい。

市民 昭和45年～55年の高度成長期、急激な人口増加の時期に建物、道路、橋梁などの公共施設が集中的に建設された。そして今、それらの建造物の老朽化、更新時期が一斉に押し寄せてくる。

宝塚市における保有施設291施設（延べ床面積は67万㎡、甲子園球場17個分）のうち、老朽化率54%。特にこの8年間投資的経費は大幅に削減され、都市計画道路は未充実。施設整備に充てる財源はない。公共施設の更新には40年間で4500億円、年間113億円必要だが、この中に新規事業は含まれていない。平成23年～25年、維持管理費は45億円、充足率40%。中央公民館は13億円、ガーデンフィールズ跡地は23億円、土地代入れて38億円、新庁舎建設は50億円、土地代入れて70億円、クリーンセンター整備は300億円、それだけでも合計400億円以上が必要である。

市は平成33年までの5年間の財政見通しでは53億円の財源不足と発表した。それには施設の更新費用は入っていない。この状況を乗り越えるためには、公共施設運営管理の専属部隊を作る必要があり、市長の強いリーダーシップがなければ実現できない。宝塚市は公共施設等総合管理計画を作ったが、未だに実現できていない。次世代にツケをまわさない自治体として秦野市や武蔵野市、三田市のように新規公共施設の建設は見直す、先送りすることが必要。お金がないのに、購入するなど市民には考えられない。このままだと都市機能が麻痺してしまう。

25年の耐用年数を超えているクリーンセンターのことはどうするのか。建設計画では平成36年となっているが、このままでは間に合わない。私たちのごみの処理はどうするのか、西宮市や三田市に分けて処理してもらうのか。

公共施設の最適化に向け、次世代に恥じることはないよう真摯に取り組んでほしい。

議員 普通にやっても5年間で53億円足りない。どう対処していくか。ガーデンフィールズ跡地、実施設計後3月までに着工していく。赤字であっても、市民のための施設であれば必要という声もあるが、1億円以上マイナス収支をどうするか、ハコを作っても中身をどう運営するのかだ。

議員 ガーデンフィールズ跡地の事業化については温度差がある。収支の問題、管理運営体制、予算などが争点。これまでも質問で取り上げられている。文化のまちといっても、それは阪急が創ってきたもの。宝塚市には文化に関する専門家の学芸員がいないのにどうやって文化を進められるのか。3年前から完成までに体制を整えておくべきだった。運営体制ができていない。3月、6月議会での予算委員会では、“全庁あげて一丸となって取り組んでまいります”との答弁が繰り返された。一方で、宝塚市の文化予算はケタ違いに低い。1億円、2億円の収支不足を赤字と見るか、投資と見るかの考え方の違いもある。お金がないからと言って、中途半端に削って、不十分なものになっても困る。やるからには、宝塚にしかないもの、とがっているものを、アートとして打ち出していかななくてはならない。

議員 宝塚市は文化芸術のまちと打ち出しており、全国2番目というブランド力がある。お金がないところを赤字と見るか、投資と見るか。

議員 阪急から土地を購入しないかと言われてこの話が進んでおり、議会も市民も必要なのか、必要ないのか議論を重ねている。しかし、ゴールが決まっているので、事業の仕上げ、ゴールに向けて、突っ走るしかない。市民にとって、プラスの資産となるよう努力すべきだ。庭園施設も宝塚市は園芸産業が歴史的に盛んである。それら地場産業の方々の意見を織り交ぜて進めていくべき。ナチュラルスパのようにはならないようにしてほしい。

議員 50億円足りないが、文化への投資と見るか財政赤字と見るか2つの考えがある。文化施設を作っていくべきなのか、ご意見は。

市民 宝塚市は市民1人あたりの文化予算はたったの700円しかない。芦屋市は3千円である。歌劇のイメージがあるが、市民に伝えるべき大事なことを忘れている。小学校施設のうち、50年以上経っている施設が24校中、5校もある。災害時には、体育館が避難所になる。市民生活の足元の環境を整えることが最優先。それから文化を考えるべきでは。命を守ることと、文化を守ることのどちらかとなると命を守ることを優先すべき。

市民 ベガホール、ソリオホールには市から年間2億円くらい補てんしているが、投資と考えれば赤字はそれほど大きいものではないと思う。老朽化と比べてどうなのかを考えると両方大事。

議員 難しい問題。老朽化の問題を本来は最優先すべきだが、どちらかを選ぶべきところ。今、ある一定の期待感がある中で進んでいるため、成功に向けて現在は文化を進めていくしかない。

議員 ガーデンフィールズ跡地の運営に1億円以上の収支不足というのは厳しいと思うが、一方で文化予算がかけられていないので文化にお金をかけるのは一定やむを得ない。天秤にかけるのは難しい。お金をかける限りは具体的に見えてこないのは不安だが、それだけ費用をかけるのだから、しっかりやってもらいたい。

また、公共施設の老朽化は全国的な問題。半分が学校施設であり、学校の改修費用について、国の予算措置も今後必要になってくるのでは。5年間で50億円もの収支不足の原因の一つは国からの交付金を減らされたこと。地方財政の安定については、国の責任できちんとやってほしい。

議員 ガーデンフィールズ跡地については、しっかり運営を行い、収支不足をどうするのか、意思決定をしなくてはならない。無駄な施設にならないように、予算委員会でも委員の総意で附帯決議を出している。マイナス部分の足りないところをどう埋めていくのか、行革特別委員会でも追及している。うまくいくのは何なのか。どうやっていくのか。

議員 収支不足を埋めるためには、多くの人に来てもらうこと。今は、突っ走るしかない。難しい。買う決断をした。歌劇場から文化創造館までの動線にある。地元の人のためだけでなく、市民全体の施設として考えないといけない。もしこの計画がなくなってマンションになってもいいのかを考える必要があると思う。市民生活優先は間違いないが、文化とのバランス感覚をもって進めることが大事。ガーデンフィールズ跡地の施設については、つくってよかったと言われる施設を目指すべき。

市民 ベガホールはうまくいっているのではないか。全国から音楽家が集まっている。小さな施設なのに有名な音楽家にも来ていただいている。吸収力、求心力をみると、よくあれだけのことができているなと思う。そういうレベルの負けない施設になってほしい。宝塚市には美術に関する施設はなかった。それを考えると、大いに期待がある。宝塚の文化施設として大きな結実になると思う。もっと美術館の必要性をPRしていかなければならない。

市民 やり方によってはうまくいくと思う。阪急電鉄はガーデンフィールズをポールスミザーさんをお願いして、10年間、すばらしい庭園を、自然を生かして作っ

た。

あの庭園を工夫をして生かしていく。それだけでいいのでは。美術品を借りるなら学芸員が必要。23億円で建てて50億円の解体費が必要なことも含めてじっくり考えてほしい。立ち止まって考えることも必要ではないか。もう少し時間をかけて。ナチュラルスパも当初厳しい状況だったが、今では、15万人が来ている。参考にするべき。

議員 文化団体も文化拠点として支えていくと寄附の申し出もあるようだ。建物を建てること自体が目的となつてはいけない。

議員 発言者お二人の言われていることはある意味リンクしている。新しい施設と今ある施設の統廃合の問題。お金がない今の財政状況では両方必要。私は、当初ガーデンフィールズ跡地については、反対だったが、最終的に賛成した。進んでいかないといけない。決まった以上は、条件を付け、費用はある一定の上限を決める。直営は絶対ダメ。財政をどうするかも考える必要がある。未来のための投資なら、全庁的にやってほしい。公共施設のうち、一番多いのは学校。統廃合を議論すべき。学校施設の統廃合はみなさん理解されるが、現場では反対が起きる。コミュニティをどうするか。突破しないとイケない。減らしていく。“未来への投資” いいものを作ろう。

今、赤字が出ている。議会のチェック機能を發揮して透明化すべき。